

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和4年12月26日 VOL. 171

全国に藤枝市の認知症施策を発信！！

令和4年11月17日～18日に福井県敦賀市で開催された『第4回 地域共生社会推進全国サミット in つるが』で「認知症にやさしいまちづくり」をテーマとする分科会にパネリストとして伊久美佳代課長が登壇し、本市の認知症施策の取り組みを報告しました。サミットには延べ約600名が参加し、地域共生についての講演や取組が発表されました。

週刊保健衛生ニュースにも掲載されました！！



本市の介護保険事業計画の重点施策として、「認知症とともに誰もが自分らしく暮らし続けられる取組の充実」の中で、本人同士が安心して語れる場づくりに向けた取組と、それを基に本人の体験や工夫を生かした「藤枝市版本人ガイド」の作成、市内の企業や団体がそれぞれの立場を生かし高齢者の暮らしを支える「認知症の人に優しいお店。事業所認定制度」について報告をしました。

【コーディネーター】奥西栄介（福井県立大学看護福祉学部教授）／玉井 顯（敦賀温泉病院理事長）
鈴木森夫（認知症の人と家族の会代表理事）／伊久美佳代（藤枝市地域包括ケア推進課長）
【オブザーバー】和田 幸典（厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進）

認知症の本人とともに発信！！

令和4年12月18日に東美濃ふれあいセンター（岐阜県中津川市）で開催した『中津川・恵那医療介護専門職連携会講演会』でゲストスピーカーとして、本市の認知症当事者である永井三彦氏と認知症地域支援推進員横山麻衣が、オンラインで登壇し「当事者の声からはじまる仲間づくり・まちづくり」をテーマに当事者の思いや本市の取組について報告しました。

当日の会場の様子



本人の声から生まれたヘルプカード →

ATMやセルフレジ等の操作場面での不便さを解消し、外出や社会参加を続けるために本人の視点で考えた『ヘルプカード』について報告し、本人が地域で暮らす中での「認知症バリア」について多様な立場の人と考えていくことの大切さを伝えました。

私は若年性認知症の本人です。
手続きや機械の操作に時間がかかることがあります。
ご協力をお願いいたします。

本市の認知症施策推進会議の中で、「認知症の人の希望を叶える環境作り」が重要であり、認知症の人が外出や社会参加を続けることにより、地域の中での認知症への理解が深まることについて検討を進めています。

